



題字 井口 文章 再刊 第308号 印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2019 みんなでつくる 錦城高校新聞

一面：新たな選択に向けて進路説明会開催 錦城祭で最優秀賞に輝いたクラスに取材 二面：宇宙を目指す錦城の卒業生 300号記念、歴代委員長に聞く編集部

# 未来の自分が輝くために



## 進路選択へ一歩前進

10月2日(水)、1年生に向けた進路講演会と2年生を対象とした学部説明会が行われた。1年生はマイナビの講師の方の講演を聞き、文理選択をする上でのポイントを教わる。また、2年生は興味のある学部で、大学の講師の方から学部や大学について学んだ。



進路講演会講師の平野さんの話を熱心に聞く1年生

## <1年生 進路講演会>

第1体育館では、1年生を対象に進路講演会が行われた。株式会社マイナビに勤める平野貴美代さんは、文理選択を間近に控えた1年生に自分の意思で進路を決定する大切さを伝えた。平野さんは「現代社会では自ら考え行動する『考動力』が求められることを、企業へ行ったアンケートをもとに紹介。その上で、就職活動に繋がる最初の選択である文理選択の重要性を訴えた。また、平野さんは文理選択のポイントとして『知識を増やすこと』と『自分で決めること』を挙げる。『大学についての知識不足や、先生や友達などの周囲の人の意見に流されるのは文理選択を失敗する典型的なパターンです。失敗しないためには、今から自分が興味のある学問・学校、仕事について調べて、十分な知識をもとに自分の意思で進路を決めることを心がけて下さい』と生徒に呼びかけた。



「一番大事なのは『自分で決めること』」

講演会終了後、講師を務めた平野さんに話を聞いた。平野さんは日々各地の高校を訪ねて、高校生の進路に関する講演会を行っている。進路選択をする上で「今ある興味を追究し、学びたい学問を見つけた上で大学を選ぶことが最も重要なポイントです」と熱弁。平野さん自身も、学生時代バスケット部に所属していた。運動をすることが好きで、現代社会では自ら考え行動する「考動力」が求められることを、企業へ行ったアンケートをもとに紹介。その上で、就職活動に繋がる最初の選択である文理選択の重要性を訴えた。また、平野さんは文理選択のポイントとして「知識を増やすこと」と「自分で決めること」を挙げる。「大学についての知識不足や、先生や友達などの周囲の人の意見に流されるのは文理選択を失敗する典型的なパターンです。失敗しないためには、今から自分が興味のある学問・学校、仕事について調べて、十分な知識をもとに自分の意思で進路を決めることを心がけて下さい」と生徒に呼びかけた。

## 錦城祭のナンバーワン決定

9月18日(水)、秋季球技大会閉会式で、錦城祭飲食企画・と話し。どのくらいの分量のクラス表彰が行われた。調剤することが難しかったという。また、当日は予想以上の売れ行きで買い出しが間に合わなかったことも。

### 飲食企画最優秀賞 2A

錦城祭飲食企画最優秀賞を受賞したのは「小平アイスム」が一生懸命やってくれたの「ジー」を提供した2A。クラで、たくさんのお客さんに提案企画の林由惟さんは、売供できて良かったと笑顔で話した。また、売供できて良かったと笑顔で話した。また、売供できて良かったと笑顔で話した。

### 一般企画最優秀賞 2K

「2Kの理Kコースター」で、一般企画最優秀賞を受賞した2K。クラス企画係である乙津広都くんは「目標であった、事故・けががゼロを達成することができたので、満足する」と話した。また、満員の前に#をつけてインスタグラムのようなデザインにしましたと話した。また、クラス旗のデザインを行った千葉一

### クラT・クラス旗最優秀賞

クラTシャツ・クラス旗の最優秀賞に輝いた1A。クラTシャツをデザインした高橋はるかさんは「クラス全員の名前に#をつけてインスタグラムのようなデザインにしました」と話した。また、クラス旗のデザインを行った千葉一



クラス全員で作られた迫力あるクラス旗

### 生徒会役員立候補者募集中！！

希望者は10月16日(水)までに 英語科 野本先生へ

## 錦城文芸 トランポリンで全力飛躍 東日本大会において優勝

9月14日(土)に群馬県前橋市民体育館で行われた東日本トランポリン競技選手権大会に出場し、シンクロナイズド部門で優勝した児玉朱梨さん(1G)。シンクロナイズドとは、2台のトランポリンを並べて2人が同時に演技を行い、高さや美しさに加えて、いかに動きを調和させるかを競い合う種目だ。児玉さんはこの大会に向けて、8月の下旬から週6日、毎日3～4時間練習してきたという。シンクロナイズドでは2人の動作の統一性が重要となる。その対策として「お互いに跳び方の癖を見つけて統一する練習をしました」と児玉さんは語った。児玉さんは大会を振り返り「決勝は予選より落ち着いて楽しく演技をすることができました」と話す。今後の目標については「今回はシンクロナイズドで優勝できたので、次に出場する全日本大会では個人部門で準決勝まで進みたいです」と意気込んだ。(卯)



「次の全日本大会で準決勝を目指します」

## <2年生 学部説明会>

チームに貢献する力を育成 経営学部の説明会は立教大学国際推進機構グローバル教育センターの上原裕輔さんによって行われた。

2021年度入試についての詳しい説明をしたのち、学部説明会は終了した。社会で必要な力を養う 法学分野に関する説明は、中央大学法学部事務室の伴さくらさんから行われた。法学は法律を研究し、どう適用するかを考える学問。法律と聞くと全員が弁護士などをイメージするが、公務員や一般企業に就職する人も多くいるという。伴さんは「法学では『リーガルマインド』を身に付けられます」と話した。リーガルマインドとは、両者の意見を聞いて適当な解決策を考える能力のこと。法に関わる仕事以外にも、様々な場面で必要な力だ。

## 機械が好きなら最先端

機械工学の概要や学問内容などについて、東京工科大学の阿蘇栄太さんによる説明が行われた。機械工学とは快適で安心して使える新しい機械を考案し、設計・製作を行う学問。人の役に立つものを作る工学という分野の中の学問で、マイクロナンズや医療用器械などを主に製作している。しかし近年、作業用ロボットの台頭で人の働く場が減少しているのが現状だ。またこの学問を学んだ後には、自動車メーカーでの研究職や工業高校の教員として大学で学んだことを大いに活かせるという。阿蘇さんは「数学や物理などの知識が必要不可欠ですが、機械や電気系が好きなら魅力が話した。」

## 再び蔵王へ スキー委員会始動

10月2日(水)、視聴覚室Aで第1回スキー委員会が開かれた。スキー旅行チームの串田昌也先生による概要の説明後、しおり、レンタル、PR各係のチームが決定。しおり係チームの阪本裕仁くん(2C)は「行事が好きなので何かできたらなと思いました」と語る。レンタル係チームである大坪蓮くん(2B)は「レンタルする道具のサイズを間違えないよう、一生懸命用意していきたいです」と話した。また、PR係チームの白倉由麻さん(2K)は「蔵王について少しでも知ってもらえるようなスキー新聞を作りたいです」と意気込んだ。

行事に向け全力で取り組む3人

## むらさき草

今年7月、友人とMrs. GREEN APPLEの「The ROOM TOUR」に行った。ライブというより、まるで劇のような演出に感動した。一方で、友人は「メンバーだけじゃなく会場全体で創っているところがザライブって感じだね」と話した。そこでふと思った。どちらが正しいライブの感想なのだろうか、と。最近、現代文の授業で夏目漱石の「こころ」を扱っている。仮説を立て、5、6人でそれぞれの意見を出し合う。グループワークを通じて、同じ物語を読んでも、本当に人によって視点が変わると感じる。先生の「同じ物語であっても『語り方』にその人の主観が生まれ、語る人間の間違った一つの物語がある」という話が印象に残った。前述のライブは、ツアーが終わるまでライブに行った人がSNS等で演出や曲目を発信することが禁止だった。ツアーの全公演が終了した後、ラジオでバンドメンバーの大森元貴(Gt/Vo.)は「SNSが盛んな時代なので、いろんな感想が重くも軽くも発信できる。その感想が、ある意味ひとつの答えになってしまふ。ツアーが終わるまでなるべく先入観を他の人に与えないで欲しい」という意味で禁止していました。とネタバレ禁止にしていた理由を明かしていました。確かに、曲も演出も全然分らないままワクワクしてライブに向かった。先入観が無かったから本当に楽しめた。曲も演出も全然分らないままワクワクしてライブに向かった。先入観が無かったから本当に楽しめた。曲も演出も全然分らないままワクワクしてライブに向かった。先入観が無かったから本当に楽しめた。

## #君の入部届をもらいたいその4 #女子バレーボール部

女子バレーボール部は、現在2年生2人、1年生2人で活動中。月・火・金・土曜日は第2体育館で練習、水曜日はトレーニング、木曜日はオフだ。女子バレー部の魅力を、部長の山田櫻さん(2J)に聞いた。女子バレー部の特徴は、自主性。練習メニューも自分たちで考えて作っているそうで「試合に勝ったときの達成感は大いです。試合に負けたとしても、自分たちで決めたものだからこそ、すぐに振り返り次に活かすことができます」と話した。また女子バレー部では、練習前の掃除から靴を揃えるといった小さなことまで、身の周りのことをとても大切にしているという。「バレーの技術はもちろん、人としても大いに成長できる場所です」と語った。練習中に思ったことがあれば何でも言い合い、お互いアドバイスをしながら練習をしている女子バレーボール部。最後に「バレーはチームスポーツです。経験の有無を問わず、バレーと一緒にやってくれる人が増えたらとても嬉しいです」と山田さんは微笑んだ。体験入部は、第2体育館で活動する際に受け付けている。興味がある人は部長の山田櫻さん(2J)、もしくは園分は美先生まで！(僅)



初心者でも大歓迎！先輩が優しく教えます



# 卒業生 錦城 &

# 宇宙に桜を咲かせたい

## 夢を追いかける卒業生に取材

青井勇輝さん(48回生)は現在、東京農工大学大学院農学府で研究しながら宇宙飛行士を目指している。夢は「月にしだれ桜を植えること」。この夢について取材をし、夢を持ったきっかけや錦城生時代の生活など、話を聞くことができた。(権・杏)

5月29日(水)、青井勇輝さん(48回生)に話を伺った。青井さんは東京農工大学大学院農学府の修士2年生。植物の成長を調節するホルモン「オキシシン」について研究している。



「無重力では桜はしだれるのか、細胞はどうなるのかを確かめたいです」

小さい頃から植物や宇宙などに興味を持ち、自然科学が好きで、子どもだったという青井さんは、宇宙飛行士になっ

て宇宙に行くことを自然と夢見るようになったそう。「昔から科学館や博物館が大好きでよく通っていましたね」と幼少時代を振り返った。

## アクティビズに世界各国へ

### 青井さん 多言語プレゼンテーション大会で金賞

2019年3月10日(日)に東京ビッグサイトの国際会議場で開催された「若者による多言語プレゼンテーション大会」第6回IMP Youth TOKYO。青井さんはNature X Nature - 多言語環境が心地いい! というテーマでプレゼンを行った。

(一財)言語交流研究所ヒップファミリークラブが主催するこの大会。高校生部門と25歳まで参加可能な大学生・社会人部門に分かれ「多言語体験を通して見つけたこと」を社会に向けて発信する。青井さんは0歳からヒップファミリークラブの活動に参加し、その一環として小学5年生でロシアに2週間、中学1年生でカナダに1か月のホームステイを経験。その他にも、高校時代のフランスホームステイや帰国後すぐに空手道の世界選手権での通訳ボランティアといった多言語体験を数多くしている。大学進学後は毎年2回以上海外を訪



スピーチ中の青井さん

れられている。空手道の世界選手権で話した選手に「今度自分の国に来たとき、自分の家に泊まっていいよ!」と

言ってもらいホームステイをしたことも。このような経験を通じて自分の世界が広がる、自然と自信をもつことができるようになったという。これらの実体験を基に自分がどうやって多言語を自然習得したのか、プレゼンを行っている植物の成長ホルモンの話も交えて植物と言語の関わりについても紹介。そして3つ以上の言語を使うというルールが定められているなか、青井さんは自身が習得している言語のうち、日本語・英語・韓国語・フランス語・スペイン語・カタラーニヤ語の6言語を用いてプレゼンを行っている、見事金賞を受賞した。

青井さんは最近、会う人ごと夢を話しているそう。話をしたその人からも、また知り合いを紹介してもらったことが多く「自分の夢に近づけるチャンスがどんどん広がっている」と嬉しそうだった。後輩たちには「進路を決めるときも、大学のことをよく調べて、その上で自分のやりたいことを見つけてほしい」とアドバイス。「興味をもったことを明確にしていけば、どんどん学びたくなるもの」と自身の体験から話す。「自分の今いる環境ではダメだと思ったら、勇気をもって飛び出さないとけない。だから自分は今何をしたいのか、探してください。それを試せるのが学生の期間です」とメッセージを送った。

「人が想像できることは、全て実現できる」という格言のもと、青井さんは宇宙を目指す。

青井さんは高校3年生の夏休みから1年間、フランスでホームステイを経験。1年間の留学を終えた帰国生たちは「キラキラして、行く前は別の人のようだと感じ、自分も外の世界に飛び出そう」と決意したそう。

青井さんは宇宙への夢を聞かれた際「具体的には何をしたいのか」と聞かれると、すぐには答えることができなかった。「その時から、夢をかなえるためには何をしたらいいのか、ということを考えているようになりました」と当時を振り返った。

青井さんは最近、会う人ごと夢を話しているそう。話をしたその人からも、また知り合いを紹介してもらったことが多く「自分の夢に近づけるチャンスがどんどん広がっている」と嬉しそうだった。

青井さんは最近、会う人ごと夢を話しているそう。話をしたその人からも、また知り合いを紹介してもらったことが多く「自分の夢に近づけるチャンスがどんどん広がっている」と嬉しそうだった。

## 青井さんの錦城生時代

錦城生時代は「毎日、勉強と部活しかしていませんでした」と青井さん。3年生の時のコース選択では、小さい頃から植物に興味があったため生物コースを選択した。先生からも真面目と言われるほど勉強していたという。休み時間も自席でご飯を食べながらの勉強。「当時はそれが当たり前だと思っていました。周りのみんなも勉強していたので」と錦城生時代を振り返った。

しかし、友達とも話せないのならフランスに行っても話せないだろうと思ひ、話すようになってから、友達の新たな一面を知ることができるだけでなく、勉強の息抜きにもなり良かったという。「『ずっと机に向かって勉強をしているだけではだめだ』と感じました」と語った。

部活は陸上部に所属し、部長も務めていたという青井さん。部活の朝練もあつたことから、朝は4時に起きて5時まで勉強してから登校する、といった規則的な毎日を過ごしていたという。

また、1年間のフランスでのホームステイを終え帰国した年の夏休みに、後藤知子先生、甘来康寛先生、植田健先生をはじめとするお世話になった先生方や友人が卒業式を開いてくれたそう。「自分1人の為に卒業式をしてくれた錦城はとっても温かい高校だと思います」と笑顔で話した。

2020年の東京を彩るメンバー

9月27日(金) 選挙管理委員会  
10月2日(水) 合唱祭実行委員会  
スキー実行委員会

東京NONOへ向けて加速

記者会見に参加

再刊300号突破記念企画第1弾

歴代委員長と振り返る錦城高校新聞

各部活の大会報告を募集しています  
職員室前大会報告ボックスの隣に  
置いてある紙に記入後、投入してください  
勝ち負け関係なくよろしくお願いします!